# 北陸の古刹

## ―大乗寺と永光寺―

大乗寺 総門

永光寺 法堂

# 専門僧堂として宗門のすぐれた人材を育成（大乗寺）

東香山大乗寺は、福井県の曹洞宗大本山永平寺の第三世・徹通義介禅師（１２１９～１３０９）が開山されたお寺です。永平寺を下り徹通禅師が加賀の地へ移り、正応二年（１２８９）、守護職の冨樫氏の帰依をうけて、野々市に大乗寺を開きました。平成二十年には七百回御遠忌を迎えます。

現在の金沢市長坂町に移ったのは、今からおよそ三百年あまりむかしの江戸時代のことです。当時は、加賀藩老本多家の庇護のもとに、二十六世中興月舟宗胡禅師、二十七世復古卍山道白禅師が住職となり、曹洞宗の改革と大乗寺の刷新を実現し、「規矩大乗（きくだいじょう）」の名を天下に知らしめました。

その伝統は現代にも伝えられ、専門僧堂として、禅のきびしい修行の場となっています。近代では渡邊玄宗（大本山總持寺貫首）、清水浩龍（大本山永

大乗寺 赤門

平寺西堂）、板橋興宗（大本山總持寺貫首）の各禅師が住職し、また澤木興道（大乗寺西堂）らのすぐれた高僧が人材を育てていきました。伽藍は曹洞宗寺院建築の典型的な七堂伽藍の配置を示し、仏殿は国の重文指定、その他の建物は、県の指定有形文化財となっています。

専門僧堂として修行僧が常在し、修行しているだけでなく、日曜参禅会や仏教文化講座、書道、香道などの教養講座を開催するなど開かれた寺院として、広く金沢や北陸地方以外の地域からも禅の心を愛する人々に親しまれています。

金沢の市街から少し外れた静かな環境。毎年、七月には法堂の前に蓮の花が開き、まるで極楽浄土を見ているような風景が目の前に現れます。

大乗寺 法堂

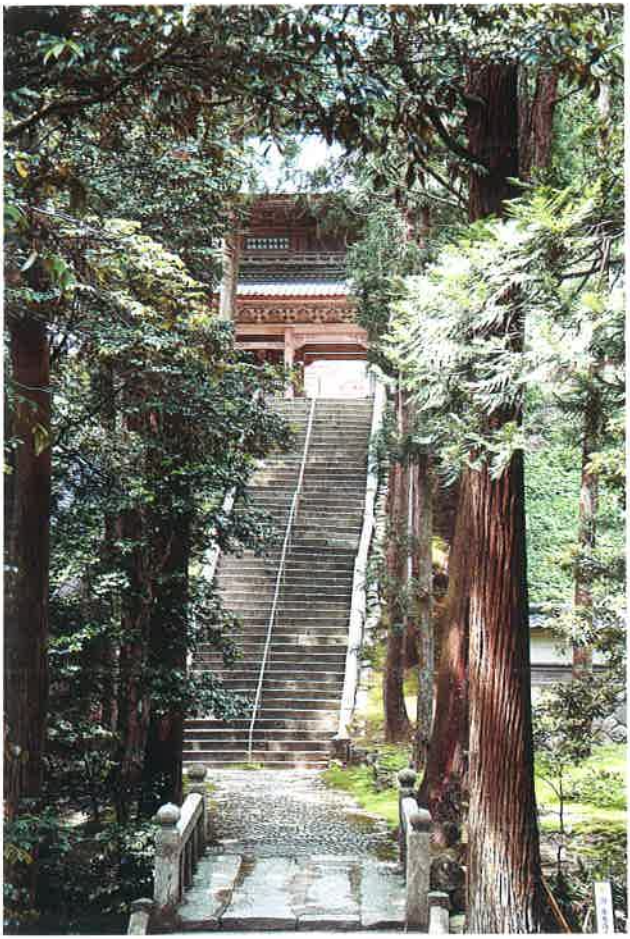
大乘寺 法堂

大乗寺 僧堂

大乗寺 僧堂外単

# 曹洞宗の五祖を祀った五老峯のある寺院（永光寺）

徹通義介禅師の弟子、大乗寺第二世・瑩山紹瑾禅師（１２６８～１３２５）が開山されたお寺が永光寺です。鎌倉時代、正和元年（１３１２）、能登の地頭、酒匂八郎頼親の娘平氏女とその夫が寄進した土地に瑩山禅師が茅屋を建てたことから始まります。その後正中元年（１３２４）に法堂が建てられました。また、瑩山禅師は曹洞宗の法燈を伝えるために天童如浄の語録、永平道元の霊骨、孤雲懐奘の血書経典、徹通義介の嗣書、自らの五部大乗経を埋納した五老峯を築き上げました。瑩山禅師は口能登にこの永光寺を建立した後、奥能登に總持寺（現



永光寺　参道

在の總持寺祖院）を創建し、曹洞宗の基盤を整えていきました。

次第に伽藍も整備された永光寺は後醍醐天皇をはじめとした勅願寺となり、また、足利将軍家の援助を受けるなど、曹洞宗の代表的な寺院として、繁栄をきわめました。

しかし、応仁二年（1468）、兵火により多くの建物を焼失。のちに後土御門天皇の祈願所となり再興されましたが、天正七年（1579）に上杉謙信の兵によって、再び焼け落ちました。

近世は次第に力を失いますが、江戸時代前期には中興の祖、久外嬾（娩）良が、江戸時代後期には碓傳南童によって復興し、近代に入っては弧峯白巌によって、山門、本堂の修復、書院と接賓の新築が行われました。また、山岡鉄

永光寺　伝燈院

舟からの書の寄付も大きな力になっています。近代は雪国の過酷な自然や台風などの被害が伽藍の老朽化に拍車をかけていましたが、平成九年、曹洞宗の宗門的な事業として「五老峯永光寺復興奉賛会」が結成され、伽藍の整備や史料の調査も進んでいます。

杉木立の中の長い石段の上の古刹。五老峯の存在からも曹洞宗の歴史に大切なお寺であることがわかります。

［参考］「永光寺ものがたり―歴史と文化財―」五老峯永光寺復興奉賛会発行

永光寺　山門

永光寺 峨山道

永光寺 五老峯

永光寺 魚鼓

永光寺 開山塔

## 二つのお寺を訪ねて、曹洞宗の歴史に触れてみませんか

善光寺では来年春、檀家のみなさまとこの大乗寺と永光寺を訪れる旅行を計画しています。永光寺では「そば打ち」も体験できるかもしれません。曹洞宗ゆかりの名刹をめぐりながら、楽しい時間を過ごしたいと考えています。詳しい旅行の日程やお申し込みの方法は、追ってご連絡させていただきます。みなさまも、奮ってご参加ください。

永光寺

大乗寺 仏殿